

たけだしやかたあとかんれんいせき
23. 武田氏館跡関連遺跡(第6次)

所在地：小浜市小浜男山
調査原因：範囲確認調査
調査期間：平成 24 年 10 月 10 日
～平成 24 年 12 月 21 日
調査主体：小浜市教育委員会
調査面積：約 200 m²
時代：中世～



位置図 (S=1/50,000)

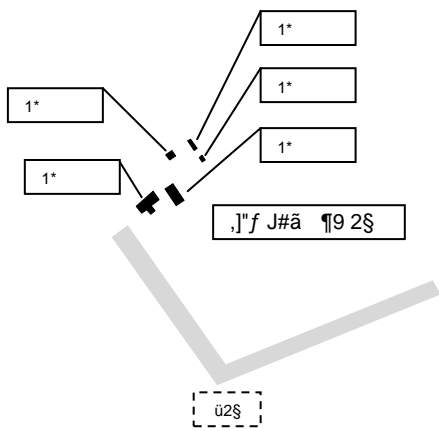
調査の概要 若狭武田氏 5 代元光は、大永 2 年(1522)に後瀬山の山上に城郭を築き、その北側山麓に守護居館を建設し、戦国時代により適応した政治拠点の確立を図りました。この若狭武田氏の守護居館跡は、文献史料や古絵図等から旧小浜小学校跡地から宗教法人空印寺にかけての場所に想定されています。当市ではこの若狭武田氏館跡を国史跡へ追加することを目的に平成 18 年度から発掘調査を実施しており、今回の調査で 6 次となります。今回の調査は、この守護居館跡東側の様相を把握するため旧小浜小学校跡地と、宗教法人空印寺境内に調査区を設けて実施しました。

遺構 旧小浜小学校跡地に 2 箇所（調査区 1・2）、宗教法人空印寺境内に 3 箇所（調査区 3～5）の計 5 箇所を調査区として設定しました。

調査区 1 では礎石建物跡 1 棟、大小の穴を検出しました（写真 1）。礎石建物跡は東西 4.6 m を測り、南北方向は 5.7 m まで確認していますが、調査区外へ延びている可能性があります。西側には石を南北方向に並べており、区画を意識しています。また、部分的に 5 cm～25 cm 程の礫を密に敷き詰めています。この礎石建物跡は、調査区 2 の北壁で柱穴を確認していることから、この辺りまで建物が存在した可能性が考えられます。調査区 3・4 では近世墓を現地表面下 1.5 m～1.7 m の深さで確認しています。大型甕に埋葬したと考えられ、甕の口縁部には平たい石で蓋をしています。調査区 5 では柱穴を 1 基確認しています。

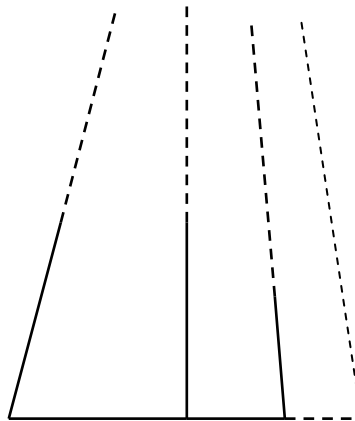
遺物 出土遺物は近世～昭和前半までの国産陶磁器、瓦が大半で、中世遺物は国産陶器（土師皿、越前焼、瀬戸美濃焼）と、外国産磁器（青磁や白磁）、銭貨、鍛冶関係遺物などを確認しました。

まとめ 今回の調査の目的は、若狭武田氏当主の住まいの東限の確認でした。調査の結果、東限となる東側の堀跡と断定できるものは確認されていませんが、調査区 3・4 から近世墓が確認されています。このことから、近世に東側の堀跡を削平したのち墓地として活用されている可能性が考えられます。調査区 1 で確認された礎石建物跡は、主軸を南北にとる建物で館跡の東端に設けられており、門のような機能を持つ建物跡と考えることもできます。今後の調査で当該遺跡の様相はさらに明らかになっていくものと思われます。（西島伸彦）



•2§ (!) £ Ū2§

“ 1 W J#ä ¶ 9 2§6ö4 4G2§ 1*)*(W



1* 2

1* 1

x%?1 1* >/&O%¼ "@